

第1部 道路交通

第1章 道路交通の現況

第1項 令和元年中の交通事故の概況

(1) 交通事故発生件数、死者数、負傷者数

令和元年中の交通事故発生件数、死者数、負傷者数は、以下の通り、いずれも前年に比べて減少している。

- ┆ 交通事故発生件数は38万1,237件（前年比11.5%減）
- ┆ 交通事故死者数は3,215人（前年比9.0%減）
- ┆ 交通事故死傷者数は46万4,990人（前年比12.2%減）
- ┆ 交通事故負傷者数は46万1,775人（前年比12.2%減）
 - 負傷者数のうち重傷者数は3万2,025人（同7.3%減）
 - 負傷者数のうち軽傷者数は42万9,750人（同12.5%減）

第10次計画では、令和2年までに24時間死者数を2,500人以下、死傷者数を50万人以下にする目標を掲げている。令和元年において交通事故死者数は3,215人と平成27年より21.9%減少（年平均：6%減少）した。しかしながら、仮に、年平均6%の減少率で死者数が減少したとしても、令和2年に2,500人以下にするという目標には及ばない。一方の死傷者数については、令和元年に46万4,990人と50万人以下とする目標を達成した。死者数等の減少に向けて、効果の大きい対策をさらに進捗させるとともに、新たな対策を行っていく必要がある。

(2) 交通事故の主な特徴

年齢層別にみると、高齢者（65歳以上）が死者数の55.4%を占める。
状態別にみると、歩行中の死者数が36.6%と最も多い。

年齢層別死者数

15歳以下	52
16～24歳	276
25～64歳	1,105
65歳以上	1,782

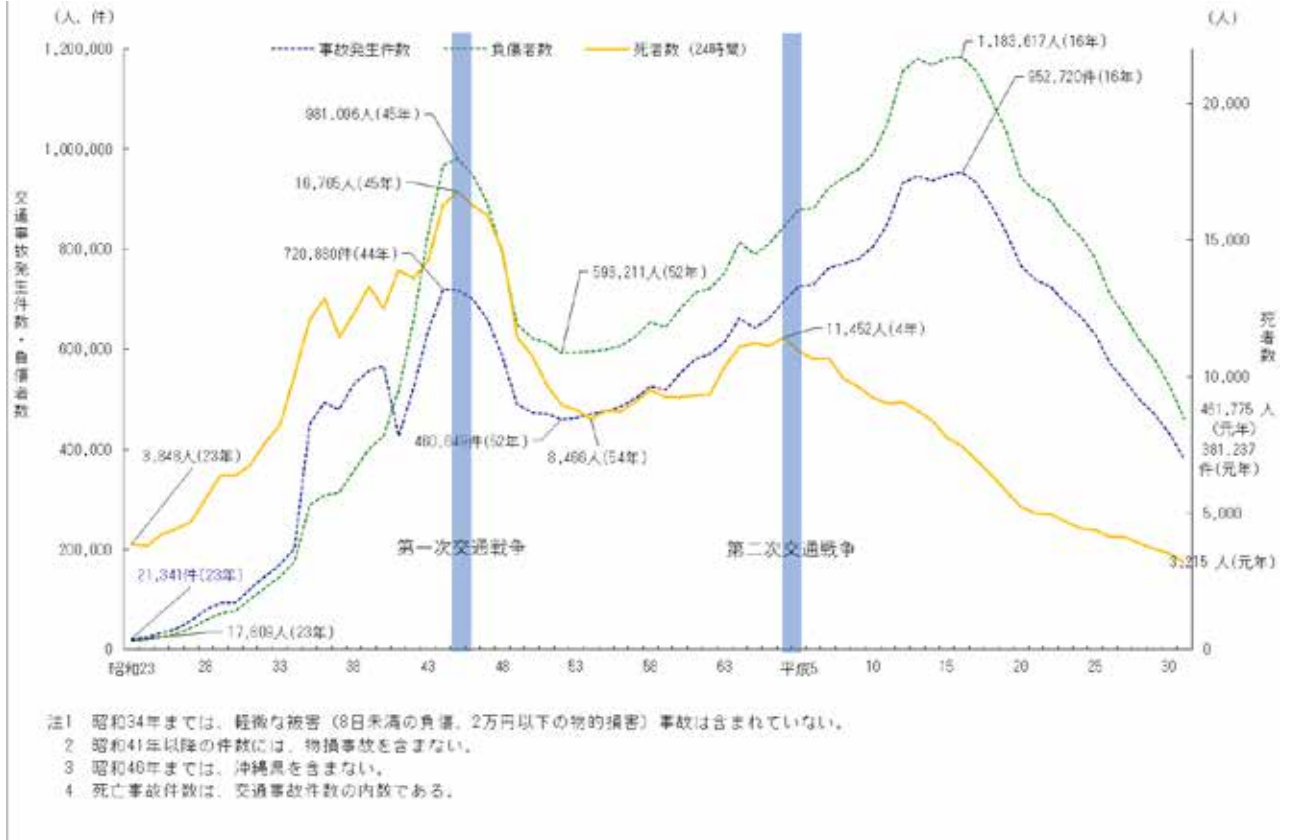
状態別死者数

自動車乗車中	1,083
二輪車乗車中	510
自転車乗用中	433
歩行中	1,176
その他	13

第2項 道路交通事故の長期的推移

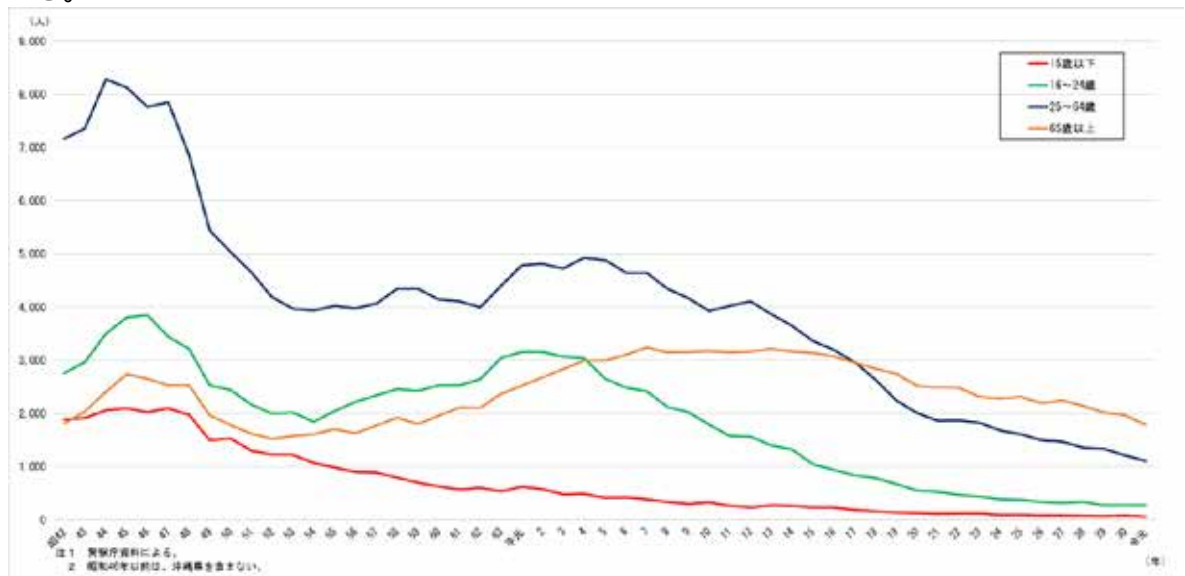
(1) 交通事故発生件数、死者数、負傷者数の推移

令和元年の交通事故死者数は3,215人となり、過去最悪であった昭和45年の1万6,765人の5分の1以下であるのみならず、現行の交通事故統計となった昭和23年以降で最も少なくなった。



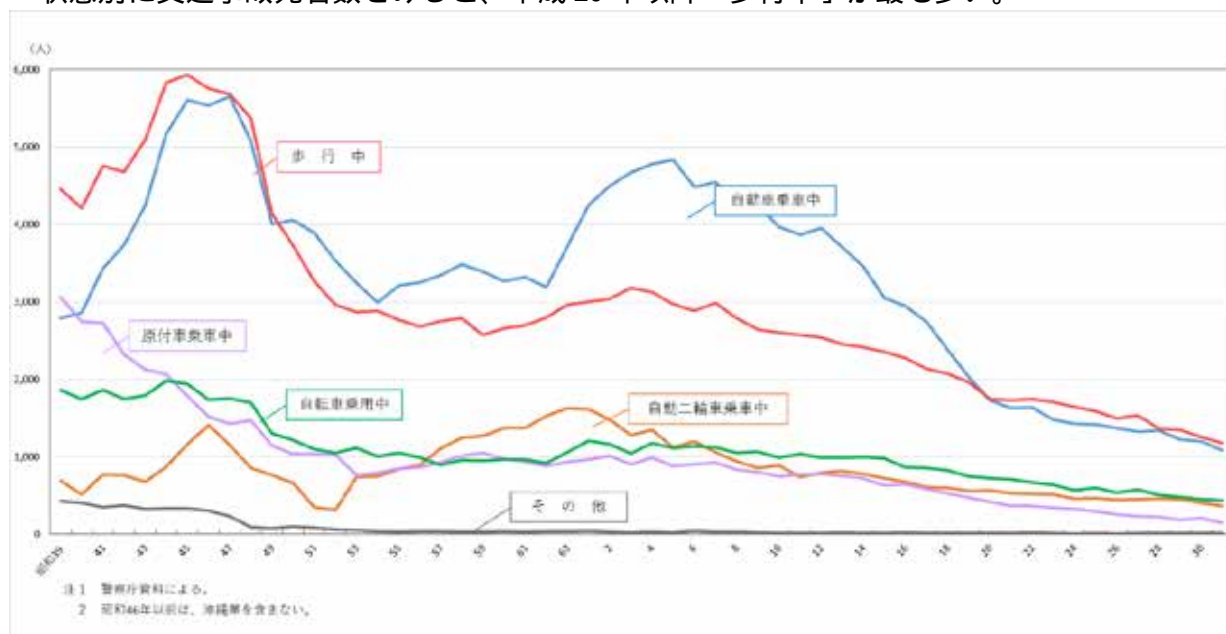
(2) 年齢層別交通事故死者数の推移

年齢層別に交通事故死者数の推移をみると、平成24年以降、「高齢者」の占める割合が50%を超えている。



(3) 状態別死者数の推移

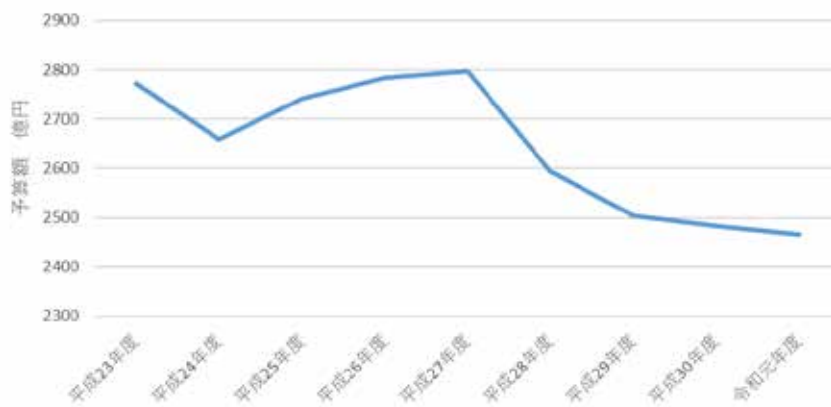
状態別に交通事故死者数をみると、平成20年以降「歩行中」が最も多い。



第3項 交通安全対策関係予算の長期的推移

厳しい財政状況の中、陸上交通安全対策関係予算は近年減少傾向¹にある。そのため、限られた予算の中で効果的な対策を行っていくためには、計画を適切に評価し、より効果的に計画の推進を図っていくことが重要である。

陸上交通安全対策関係予算の当初予算額推移 (平成23～令和元年度)



出典：交通安全白書

¹ 文章中の「減少傾向にある」とは期間を通じて増減はあるものの傾向として減少しているものを表し、「減少している」とは、期間を通じて一貫して減少しているものを表す。第3章にて同じ。

